

博物館評価とは

博物館法第9条に基づき、博物館が、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めるものです。

栃木県立博物館では、試行として平成27（2015）年度実績に関する自己評価を実施し、その結果を博物館協議会に諮り、御意見をいただき、平成28（2016）年度実績の評価から本格実施に移行しました。

評価の方法

当館による自己評価及び栃木県立博物館協議会による外部評価により行っています。

- ・自己評価は、目標の達成状況について、定量的評価及び定性的評価を行うものです。
- ・外部評価は、自己評価結果の妥当性を検討し、今後のあり方に関し、助言を行うものです。

評価の結果

栃木県立博物館評価シート（令和3年度実績）

栃木県立博物館評価シート(令和3年度実績)

1. 定性的評価

目標値:チェックリスト評価項目 1項目3点
達成値:a評価 3点 b評価 2点 c評価 3点
評価基準 A:比率90以上 B:比率89~80 C:比率80未満

総括

評価項目	目標値(a)	比率 (b/a × 100)	評価	備考	R2	
	達成値(b)					
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	15	100.0	A	A	
		15				
	(2) 資料の保存管理		24	87.5	B	B
			21			
2 調査研究		12	83.3	B	B	
		10				
3 展示・普及教育活動	(1) 共通	9	88.9	B	B	
		8				
	(2) 常設展・企画展等	24	100.0	A	A	
		24				
	(3) 普及教育活動	15	100.0	A	A	
		15				
4 施設の計画的な整備・維持管理		24	91.7	A	A	
		22				
5 情報の発信と公開		18	94.4	A	A	
		17				
6 県民参加		15	80.0	B	B	
		12				
7 効果的・効率的な管理運営		12	100.0	A	A	
		12				
8 中核的博物館としての機能充実		24	100.0	A	A	
		24				

内訳

評価項目	a評価	b評価	c評価	備考	
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	5	0	0	
	(2) 資料の保存管理	5	3	0	
2 調査研究		2	2	0	
3 展示・普及教育活動	(1) 共通	2	1	0	
	(2) 常設展・企画展等	8	0	0	
	(3) 普及教育活動	5	0	0	
4 施設の計画的な整備・維持管理		6	2	0	
5 情報の発信と公開		5	1	0	
6 県民参加		2	3	0	
7 効果的・効率的な管理運営		4	0	0	
8 中核的博物館としての機能充実		8	0	0	
計	52	12	0	R2 a評価 51 b評価 12 c評価 0	

1 定性的評価項目チェックリスト

評価 a: おおむねできている b: ある程度できている c: 不十分

大項目	中項目	チェック内容	評価	備考	R2
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	① 館が定めた中・長期的な収集方針に基づき資料収集が行われているか	a		a
		② 県民ニーズや時代の要請を踏まえて必要な資料収集が行われているか	a		a
		③ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	a		a
		④ 収集資料の燻蒸・クリーニングが適切に行われているか	a		a
		⑤ 標本作成途中の資料の管理が適正に行われているのか	a		a
	(2) 資料の保存管理	① 資料の収蔵スペースは確保されているか	a		a
		② 資料の収蔵環境は適正に管理されているか	b	空調なしの収蔵庫(地学)	b
		③ 有害生物のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	a		a
		④ 資料の修復や保存処理等の措置を必要に応じて行っているか	b	予算の制約がある	b
		⑤ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	a		a
		⑥ 資料台帳・データベースが整備・更新されているか	b	システム不具合未改善	b
		⑦ 収蔵庫の入退室管理簿が整備されるとともに、適正に管理されているか	a		a
		⑧ 収蔵庫の鍵が適正に管理されているか	a		a
	2 調査研究		① 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	b	コロナの影響
② 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加しているか			b	コロナの影響	b
③ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか			a		a
④ 調査研究の成果を、国、県、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか			a		a
3 展示・普及教育活動	(1) 共通	① わかりやすく楽しめる展示の工夫をしているか	a		a
		② 栃木県障害者差別対応指針に基づき支援が必要な人のための対応がなされているか	b	状況に応じた配慮途上	b
		③ 温度・湿度・照度等の展示環境を適正に管理しているか	a		a
	(2) 常設展・企画展等	① 新収蔵庫棟を活用し常設展示資料の展示替えが適宜行われているか	a		-
		② 常設展の展示資料や設備等が適宜点検・整備されているか	a		a
		③ 常設展の展示情報が適宜修正・更新されているか	a		a
		④ 常設展の展示解説等が適宜実施されているか	a		a
		⑤ 中・長期的な企画展の開催計画を策定しているか	a		a
		⑥ 総合博物館として、人文・自然の各部門が連携協力した企画展・テーマ展等を開催しているか	a		a
		⑦ 県民ニーズや時代の要請を踏まえて、企画展・テーマ展等を開催しているか	a		a
		⑧ 調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した企画展・テーマ展等を開催しているか	a		a
	(3) 普及教育活動	① 多様な参加者を想定したプログラムが用意されているか	a		a
		② 学校教育活動との連携を図っているか	a		a
		③ 教員指導者向けの支援・育成プログラムを実施しているか	a		a
④ 事業実施にあたり参加者の安全が配慮されているか		a		a	
⑤ 学芸員実習や職場体験の学生・生徒を受け入れ、適切に指導しているか		a		a	

大項目	中項目	チェック内容	評価	備考	R2
4 施設の計画的な整備・維持管理		① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	b	計画あるが予算伴わず	b
		② 危機管理マニュアルを整備し職員に周知しているか	a		a
		③ 緊急事態に対応できるよう、消防・避難等の訓練を定期的実施しているか	a		a
		④ 休憩コーナー、授乳コーナーの設置や車椅子の貸し出し等、来館者が快適に観覧できる環境が整っているか	a		a
		⑤ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	a		a
		⑥ 館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	b	英文のみ多言語未	b
		⑦ 駐車スペースについて利用状況に応じた対応が行われているか	a		a
		⑧ 感染症対策を徹底しているか	a		a
5 情報の発信と公開		① 館の使命や運営状況をホームページなどで公開しているか	a		a
		② ホームページ、SNS等を活用して展示・普及教育情報を広く発信しているか	a		a
		③ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	a		a
		④ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等)に適切に対応しているか	a		a
		⑤ 二次資料(写真等)の特別利用(原板使用等)に適切に対応しているか	a		a
		⑥ 資料のデータベースを公開・更新しているか	b	システム不具合未改善	b
6 県民参加		① ボランティア活動が活発に行われているか	b	コロナの影響	b
		② ボランティア研修が適切に実施されているか	b	コロナの影響	b
		③ 友の会、研究団体、文化団体等が館事業に参加する機会を設けているか	b	コロナの影響	b
		④ 施設利用のための情報が公開されているか	a		a
		⑤ オープンスペースを有効に活用しているか	a		a
7 効果的な管理、運営		① 館として中長期的な経営目標を定め、職員に周知しているか	a		a
		② 館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に行っているか	a		a
		③ 事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価を実施しているか	a		a
		④ 事業面、管理運営面など全般にわたる外部評価を実施しているか	a		a
8 中核的博物館としての機能充実		① 公開承認施設として資料を公開しているか	a		a
		② 県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	a		a
		③ 県内の博物館施設を対象とした協力・支援・連携事業を実施しているか	a		a
		④ 県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	a		a
		⑤ 地方自治体や各種組織に専門的な立場で助言・情報提供を行っているか	a		a
		⑥ 大学、高校等の教育機関への寄与・貢献を行っているか	a		a
		⑦ 県内外の学会、研究会等の運営に寄与・貢献しているか	a		a
		⑧ 栃木県博物館協会の中心館として機能しているか	a		a

栃木県立博物館評価シート

2. 定量的評価

基準値：H29～R3の5年平均

評価基準 A:おおむねできている【比率(90以上)】 B:ある程度できている【89～80】 C:不十分【80未満】

分野	評価項目	基準値(a)	比率 (b/a×100)	評価	備考	R2	
		実績値(b)					
1 利用状況	(1) 年間博物館入館者数	83,287 人	99.9%	A	R3.8.24～9.30 臨時休館 R3.7.30～8.22 各種イベント等中止 コロナの影響	B	
		83,188 人					
	(2)レファレンス件数	865 件	82.4%	B		A	
		713 件					
2 展示	(1)企画展・テーマ展	14 件	100.0%	A		A	
		14 件					
	(2)ロビー展示・トピック展示	11 件	100.0%	A		A	
		11 件					
	(3)展示室利用率	91.4 %	104.5%	A	企画展・テーマ展なしの日12日	A	
		95.5 %					
	(4) 来館者満足度	90.6 %	-	-	※アンケートを行った直近(H29～R1)3年平均を基準値とした コロナの影響によりアンケート実施せず	-	
		- %					
3 普及教育	(1)普及教育事業開催回数	121 回	98.3%	A	R3.8.24～9.30 臨時休館 R3.7.30～8.22 各種イベント等中止 コロナの影響	C	
		119 回					
	(2)地域移動博物館	回数	10 回	90.0%	A		C
			9 回				
		人数	26,904 人	193.5%	A		C
			52,050 人				
	(3)出前授業	53 回	66.0%	C		C	
		35 回					
	(4)学校来館数	153 件	90.2%	A		C	
		138 件					
4資料の活用	(1)資料貸出件数	173 件	60.1%	C		A	
		104 件					
	(2)新規 データベース公開件数	10,480 件	0.0%	C	データベース故障のため新規公開なし	C	
		0 件					
5 調査研究	(1) 研究論文・研究報告書等件数	62 件	101.6%	A		A	
		63 件					
	(2)口頭発表件数	31 件	96.8%	A		C	
		30 件					
6情報の発信	(1)報道機関取材	59 件	79.7%	C		A	
		47 件					
	(2)ホームページアクセス件数	881,921 件	201.4%	A		A	
		1,775,877 件					

3. 年度内に取り組んだ重点事業・新たな取り組み等

<p>事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍への対応等 令和3年度は、コロナ禍により、令和2年度に引き続き、やむなく、臨時休館（R3.8.24～9.30）や各種イベント等を中止したが、休館中も展示状況の配信などホームページやSNS等を活用した積極的な情報発信に努めた。 ○ 企画展、テーマ展の開催 学芸員の調査研究に基づき、企画展「収蔵庫は宝の山！～博物館の資料収集活動～」、「鉱物と宝石の教室」や「木と木の実の考古学～縄文時代の低湿地遺跡と植物の利用～」や、テーマ展「クビアカツヤカミキリ～話題の害虫まるわかり～」、「鎌倉殿源頼朝の義兄弟足利氏の軌跡」、「生誕140年野口雨情～童心の詩人を終焉の地・宇都宮～」などを開催し、本県の自然・歴史・文化の魅力や特色、今日的課題などを広く県民等に情報を発信した。 ○ ロビー展示の開催 2階ロビーでは、タイムリーな展示を行っている。「歴史収蔵庫で見つけた！ 渋沢栄一の足跡」は、NHK大河ドラマ『青天を衝け！』で渋沢栄一が脚光を浴びたことから急遽開催したもので、渋沢栄一と栃木県の関わりについて収蔵資料を中心に紹介した。 ○ 普及教育事業の推進 市町や学校等と連携しながら、地域における移動博物館や出前授業・観察会の実施など、普及教育事業を積極的に推進したほか、県有バスを利用した小規模小学校の来館促進事業「来て、見て、学ぼう博物館」を実施した。 ○ 各種メディアを活用した情報発信 ホームページやSNS等を活用し、行事イベントやボランティア活動に加え、「顔の見える博物館」として学芸員の職員紹介等の情報発信を行ったほか、取材や新聞コラム欄への定期的な執筆活動等を通して、調査研究に係る情報発信を積極的に行った。 ○ 県立博物館の日イベントの実施 県民に親しまれ、開かれた博物館を目指して、毎月第3日曜日を「県立博物館の日」とし、学校や関係団体等の協力を得ながら各種イベントを実施した。 ○ 新収蔵庫棟の供用開始 資料の保存に適した庫内環境を整備した新収蔵庫棟について、4月から供用を開始した。 ○ 他館、他機関との連携 奥州再仕置430周年記念「徳川家康が下野にやってきた！」は、豊臣秀吉の天下統一から430周年を記念する連携展として、那須与一伝承館、福島県立博物館、八戸市博物館など県内外の13館と連携した広報活動を行った。また、テーマ展「山からの贈り物」では、県環境森林部各課と連携した展示や物品販売を実施した。
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「収蔵庫は宝の山！～博物館の資料収集活動～」をはじめ、特色ある企画展・テーマ展等の開催により、県民をはじめ、広く、本県の歴史・文化や自然の魅力・特色についての紹介・普及に努め、各種メディアを活用した情報発信を積極的に行った。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、8月下旬から9月末まで臨時休館となったが、年間を通して、8万人を超える多くの方に入館していただいた。（R2: 72,670人、R3: 83,188人） ○ 感染拡大防止策を徹底した地域移動博物館や出前授業等の実施により、市町や学校との連携強化に努めた結果、移動博物館、共催展等で前年度を上回る多数の入館者があった。（R2: 28,373人→R3: 89,002人）特に、地域移動博物館「玩具～なつかしのおもちゃ展～」は、入館者が3万人を超え、好評を博した。 ○ 「来て、見て、学ぼう博物館」は、令和3年度は11校分の計画に対し、19校の申込があり、好評を得ている。 ○ ツイッターのフォロワー数は、令和2年度が5,633人、令和3年度は6,649人と伸びている。当館の情報発信だけでなく、観覧者の感想などの書き込みが増加しており、貴重な情報源ともなっている。 ○ 「県立博物館の日」は実施開始から8年を迎え、「県博デー」として定着し、協力団体の関係者等をはじめ、多くの入館者（平均796人／回）を確保するなど、「県民にとって開かれた親しみやすい博物館」として一定の効果を上げている。

4. 総合評価

基準値: 評価項目 1項目3点
 実績値: 評価a 3点、b 2点、c 1点
 総合評価: 実績値(合計) / 基準値(合計)

評価の種類(項目数)	A評価	B評価	C評価	R2
定性的評価(11項目)	7	4	0	A評価 7 B評価 4 C評価 0
定量的評価(16項目)	11	1	4	A評価 8 B評価 1 C評価 7
総合評価	83.9%			76.5%

5. 自己評価総括

評価	<p>○ 「定性的評価」については、「資料の収集・保管」、「展示・普及教育活動」、「施設の計画的な整備・維持管理」、「情報の発信と公開」等において、おおむね達成できていた。 「調査研究」、「県民参加」については、コロナ禍により活動の縮小をせざるを得ない状況であった。</p> <p>○ 「定量的評価」については、コロナ禍において、臨時休館やイベント等の中止があったため、「普及教育」の出前授業の開催数や「資料の活用」の資料貸出件数は基準値を下回った。 しかしながら、ホームページやSNS等による積極的な情報発信に努めるとともに、コロナ感染防止対策を徹底した上で、安心して楽しく観覧できる体制を整えて事業を実施し、おおむね達成できていた。</p> <p>○ 「総合評価」としては、様々な努力の結果、R2年度に比べA評価が増えており、コロナ禍以前と同様の8万人を超える入館者数を得て、おおむね適正な運営であったと認められる。</p>
課題	<p>○ SNS、ホームページ等を活用した、よりわかりやすい情報発信の工夫</p> <p>○ 老朽化した施設の改修・修繕</p> <p>○ データベースの充実</p> <p>○ 収蔵資料を活用した事業のさらなる展開</p>
対応の方向	<p>○ ホームページのブログ機能、Twitter、facebook等を活用し、展示状況の動画配信やイベント等について、よりわかりやすく、タイムリーな情報を積極的に発信していく。</p> <p>○ 施設の改修・改善については、老朽化の現況や優先度を踏まえ、関係部局と協議・連携しながら引き続き予算の確保に努めていく。</p> <p>○ データベースについては、現在不具合等が生じているため、新システムの導入を模索していく。</p> <p>○ これまでも収蔵資料を活用して、常設展の小規模展示替え、企画展、テーマ展、移動博物館の充実、県内外の博物館、美術館、資料館などの展示への貸出し、小中高校の授業への貸出し、研究者による学術利用への協力等を行ってきたが、今後、さらに県民が関心を持つテーマに関する資料の機動的な展示や、県内の生涯学習施設や学校等と連携した展示・教育普及事業の実施によって収蔵資料の活用を促進していく。</p>

6. 博物館協議会総括

協議会の意見	<p>令和3年度の博物館の運営の状況については、概ね適正に運営されたと判断される。</p> <p>なお、次の事項については、博物館本来の使命や県民サービス、県民との協働等、博物館運営に関わる大きな課題であることから、対応策を検討すること。</p> <ol style="list-style-type: none">1 博物館からの積極的な情報発信について継続するとともに、県民から情報や意見をインターネットで投稿できるような仕組みなど、さらなる県民参加の手法について研究すること。2 不具合が生じているデータベースについて、早期に不具合の解消を図り、県民の利便性を確保するよう努めること。3 開館40周年を迎え、施設・設備の老朽化が進んでいるため、関係部局と協議・調整を図り、計画的な改修・修繕を進めること。
--------	---